

1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年10月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2770901037
法人名	医療法人 祐生会
事業所名	グループホームみどりヶ丘荘
所在地	高槻市奈佐原4丁目7番1号 (電話) 072-692-3287
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 9月 26日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	7人
職員数	8人	常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500円	その他の経費(日額)	787円
敷金	有() 円 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> (70,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	150円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ 150円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20年 7月 15日現在)

利用者人数	7名	男性 2名	女性 5名
要介護1	0名	要介護2	5名
要介護3	1名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 90歳	最低 83歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人祐生会 みどりヶ丘病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人祐生会が運営するグループホームで、介護老人保健施設が併設されています。7名という小人数で家庭的な雰囲気です。ホーム職員は勤務の心構えを11項目掲げ『利用者の気持ちを尊重する。生活の場である事を理解する。本人の出来る事の把握をする。会話を重視する。生活の場を支援する。見守りをする。体調の管理をする』等を日々の介護に活かしています。また、利用者には鍵をかけない自由な生活を実現しており、玄関には番犬代わりにセンサーで反応する置物の犬を配置し、人の出入りを確認する工夫をしています。管理者は認知症介護の指導者として各方面で活躍し、職員にも認知症介護の理解と知識の向上を働きかけています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 管理者、職員は評価の意義や目的を共有し、外部評価の結果を踏まえて、個々の内容について見直しに取り組んでいます。昨年の外部評価結果は運営推進会議等でも報告を行っています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、管理者と共に職員間で話し合って作成しています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は高槻市職員、民生委員、自治会代表、家族の参加のもと開催し、運営状況や行事予定、利用者の生活ぶり、職員の紹介、外部評価の結果の説明等を行っています。参加者家族の意見によりビデオを購入し、施設での様子を撮影して喜ばれています。現在のところ、開催が年1回程度となっています。管理者と地域包括支援センターの担当者との意見交換や相談の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいます。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 法人の広報誌「なさはら」に利用者の様子や行事案内、職員の異動などを知らせています。変化があったときは電話で家族に伝えています。金銭管理については利用者が各自財布を持ち、自分で支払いをすることを支援しています。玄関脇に意見箱を設けています。家族が訪問した際には、意見、苦情等話し合える雰囲気作りに努めています。寄せられた意見、希望等は職員全員が把握共有し、迅速に対応するように心がけています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 併設する老人保健施設との合同行事として納涼盆踊り大会や餅つき大会を開催し、地域の人との交流があります。民生委員やボランティアの方々との交流も図っており、近隣自治会の定期清掃にも参加しています。その他、地域の商店や図書館の利用も始めています。
重点項目④	

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として「私たちは真心の医療と福祉を通じて地域の人々に貢献します」をあげ、グループホームの理念として「ご利用者様がくつろげる環境作り、ご利用者様の一人一人を理解する心と体のケア」を掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流を目指しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念について理解し共有しています。7名の利用人数で、家庭的な雰囲気の中でゆっくりと落ち着いた介護をという管理者の思いが職員に伝わっています。また、日々の目標を掲げ、職員の意識向上に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	併設する老人保健施設との合同行事として納涼盆踊り大会や餅つき大会を開催し、地域の人との交流があります。民生委員やボランティアの方々との交流も図っており、近隣自治会の定期清掃にも参加しています。その他、地域の商店や図書館の利用も始めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義や目的を共有し、それを活かす内容について取り組んでいます。自己評価についても、管理者と共に職員間で話し合っって作成しています。昨年の外部評価結果は運営推進会議でも報告を行っています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は高槻市職員、民生委員、自治会代表、家族の参加のもと開催しています。会議では運営状況や行事予定、利用者の生活ぶり、職員の紹介、外部評価の結果の説明等を行っています。会議に参加している家族より、イベント時の様子をビデオ等でも見たいという要望がありました。検討を行い、ビデオを購入しています。	○	今年度の開催は事情により一時的に中断していました。今後の開催予定を立てていますが、今後は概ね2ヶ月に1回もしくは年に6回、運営推進会議が開催できるよう努力することが求められます。運営推進会議規則に守秘義務に関する項目を追加されてはいかがでしょうか。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者と地域包括支援センターの担当者との意見交換や相談の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいます。また市の職員との交流や相談する機会もあり、管理者は高槻市の認知症サポーター養成講座の講師をしています。また、「認知症家族を支える会」の依頼により講師を務め、アドバイザーとしても担っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人の広報誌「なさはら」にグループホームの利用者の様子も伝えています。また、行事案内や職員の異動なども知らせています。利用者の変化があったときは電話で家族に伝えています。金銭管理については利用者が各自財布を持っています。おやつを買ったりするときは自分で支払いをする楽しみを支援しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇に意見箱を設けています。家族が訪問した際や行事の折に、積極的にコミュニケーションを図り、意見、不満、苦情等話し合える雰囲気作りに努めています。寄せられた意見、希望等は職員全員が把握共有し、迅速に対応するように心がけています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるように努めています。職員の異動については、広報誌「なさはら」や家族の訪問時に報告しています。新しい職員が入る時は業務マニュアルに沿って、スムーズになじめるように工夫しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画は、どの職員でも参加できるように配慮しています。外部研修についてもできるだけ参加しています。不参加者には伝達研修を行い、資料を提供しています。新人研修についてはマニュアルを作って活用しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの見学や相互の訪問がありますが、高槻市のグループホームのネットワークはありません。今後、地域の事業者間のネットワーク化に貢献されることが期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が自宅に出向いて本人や家族の相談にのったり、入所施設等を訪問し面接を行ったりしています。入居前には食事や談話、散歩などを通してホームの環境に馴染んでもらえるようにしています。また、本人と職員が顔なじみになってもらえるような機会を多く作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お花の好きな方には生け花を生けてもらったり、利用者から魚のさばき方を教わったりすることもあります。話し上手な方には皆の前で挨拶をお願いしています。編み物、縫い物など利用者一人ひとりの得意な事を見だし、支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者、家族等から希望や意向を詳細に聞き取り、入居後に望む日々の暮らしを把握するとともに、利用者の日々の表情、言動から意向を汲み取るなどして、利用者本位の介護に努めています。内容については職員が共有し、利用者の声かけ、意向の把握に役立たせています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望・要望を聞き、状態や動作を分析して、介護計画を作成しています。作成した介護計画は、利用者や家族から同意のサインを得ています。介護計画書の様式については、各方式を参考にしてホーム独自の様式を作成しています。また専門のチェック表を制定し計画に取り込んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、定期的実施しており、状態の変化が生じた場合は、その都度見直しを行うと共に、変化に応じた介護計画を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、併設施設の看護師が相談にのっています。施設長でもある医師も週2～3回朝に訪問し、相談のっています。また、管理者は地域の認知症について悩んでいる方から相談を受け入れています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診については、薬の無くなる10日前に家族へ連絡し、予約を取ってもらえるようにしています。どうしても困難な場合は、ホーム側で通院介助を行っています。また併設施設の医務室に来院している医師に受診することもあります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に関する対応方針は、身体状況に合わせて家族と話し合い、終末期に向けての支援を行っていく取り組みを始めています。家族の希望もあり、最近は見取りを経験しました。今後は運営推進会議に図りながら見取りに関する指針の作成が望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが、勉強会やミーティングの際にプライバシーに関する意識の向上を図るよう心がけています。また、日々の介護の場面でも利用者を尊重した対応を心がけ、職員の言葉使いも丁寧です。個人記録等は利用者の目に触れないよう保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、急がずことなく支援しています。ゆっくりと食事を摂る方の横にさりげなく職員が着き声をかけたり、食後部屋で横になる方、新聞を広げ読んだりする方など一人ひとりのペースを見守っています。ホームとしての日課はありますが、利用者の意向に合わせて支援し、見守ることにしています。気候や利用者の状態を確認しながら、常に臨機応変に取り組んでいます。利用者が過ごしやすい場所を把握して、家具の配置などにも配慮しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理前にはテーブルに座りながらじゃがいもの皮むき、タマネギの皮むき等できることに取り組んでいます。オープンキッチンになっており、誰でも気軽に手伝いができるように工夫されています。3食共にホーム内で調理しています。また、献立についてもその都度何を食べたいか利用者と相談しています。食材については週2回買い物に出かけています。職員は利用者をサポートしながら、和やかに会話を楽しみ一緒に食事をとっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望すれば毎日入浴できます。どの時間帯でもゆっくりくつろいで入浴することができます。浴室の浴槽からの目の位置に富士山のパネルが貼られ、よりくつろげるように工夫しています。居室で足浴をしたり、併設施設のリフト浴を利用したりする方もおられます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの好きなこと、得意なことを把握して支援しています。書道の教室に参加して作品を飾ったり、詩吟のお稽古に併設施設へ行かれたりする方、ソーイングを習っている方もあります。編み物をする方、お花を生ける方にはそれぞれのことを教わり、料理の得意な方には郷土料理などを教わっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日出かけています。また併設施設の喫茶室へ出かけてお茶を楽しんでいます。ホーム周辺は住宅街ですが、併設施設の公園や池の鯉を毎日楽しみに見に行かれる方もいます。外に火鉢を出してバーベキューを楽しんだり、家族と外食したり、利用者全員でドライブをすることもあります。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間の時間帯は玄関の鍵を開錠しています。センサーで反応する犬の鳴き声やチャイムなど、3箇所です音が鳴る工夫をしています。利用者は自由に外出できるようになっています。以前住んでいた隣のケアハウスに行かれる方もいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成し、同法人と合同で毎月避難訓練を行っています。消防署の指導のもと、消防訓練も実施しています。食料と水は備蓄があり、併設施設にもホーム分の非常食と水が確保されています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量については記録されています。水分摂取量については利用者の『体重×30ml』を目標にしています。夜間に不眠の訴えがあれば、ホットミルク等で対応しています。栄養バランスについては、併設施設の管理栄養士から毎週アドバイスをもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはベンチが置かれ、お花が植えられて訪問しやすい雰囲気です。池には鯉が泳いでいます。リビングにはソファ、和室にはこたつが出されることもあります。壁面には利用者の作品や行事の写真、食事風景の写真が飾られ、家族からも喜ばれています。季節ごとの生け花も生けられています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はゆったりとした広さで、洗面所も設置されています。利用者は自宅から食器棚や手芸品、テレビ、タンス等思い出の品々を持ち込み、家族との写真や、自分で作った作品を飾っている方もあります。自分の居室で馴染みの品々に囲まれて、ゆったりと過ごされています。		